

## 【めざす生徒像】

『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒

【社会の創り手となる生徒の育成】

『礼節』 礼儀と節度を守る生徒

【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】

『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒

【多様な人々と協働できる生徒の育成】

## 【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。

青空に初夏の気配が感じられ、若葉が目眩しくうつる季節となりました。

学校生活は「おはようございます」で始まります。そして、「さようなら」で締めくくります。そんな挨拶が日々繰り返されています。毎朝生徒たちもすこし眠そうな顔をしながらも、元気よく挨拶をしてくれます。木津第二中学校では生徒と教職員を合わせて400名近くの人々が生活しています。私たちが生活していくうえで、挨拶をする習慣があるということは、本当に素晴らしいことだと思います。もし挨拶というものがなかったら、人と出会っても沈黙があるか、用件を伝えるだけの潤いのない会話があるだけです。もちろん、挨拶をすることが好きな人もいれば苦手な人もいるかもしれません。大切なことは、「必ず大きな声で挨拶しなければならない」ということではなく、「挨拶の意味や良さを知ったうえで、自然にできる挨拶」ということだと思います。実は挨拶にはそれぞれに大切な意味を持っているのです。

この「挨拶」の語源は、禅宗で問答を交わして相手の悟りの深淺を試すことを「一挨一拶（いちあいいつさつ）」といい、その言葉に由来するそうです。「挨」には「押し開く」「互いに心を開いて近づく」、そして「拶」には「迫る」「すり寄る」という意味があるそうです。つまり、「お互いの心を開き、相手の心に近づく」という意味になります。

また、「行ってきます」は、「行きます」と「帰ってきます」を合わせ、「今から出かけます、そして帰ってきます」と再び帰って来ますという意味が込められた言葉です。昔は旅をするのも命がけで行っていたので、「必ず帰ってきます」という誓いをしたようです。英語には「行ってきます」にうまく当てはまる表現は見当たらないのです。

挨拶は、相手との心を開く言葉、相手へのねぎらいや気遣いの気持ちの込められた言葉、そして相手に希望や勇気を与える言葉です。そして私にとっても毎朝生徒からもらう挨拶は、とても清々しく、「今日も一日頑張ろう」という元気をもらえる言葉です。これらの挨拶はとても短い言葉ですが、大きな意味と大きな力が込められた「魔法の言葉」です。今後も一人一人が挨拶の大切さを知り、挨拶で満ち溢れる学校づくりに努めてまいります。



5月からすでに気温が25℃を越える日が何日もあり、季節がだんだんと夏に向かっていくのを感じます。今年の夏もかなり暑くなるという予報が出ていますが、心配になるのが熱中症です。熱中症になると、体の中に熱がこもって、頭が痛くなったり、気持ち悪くなったり、ひどくなると命にかかわる危険な状態になったりします。

しかし、私たちの体には、夏の暑さに徐々に慣れる仕組みが備わっています。ただ、急に暑くなったときは、体がまだ暑さに慣れていないため、熱中症にかかりやすくなります。普段から軽い運動をして体を暑さに慣らしておくことが大切です。また、熱中症になる原因として、睡眠不足や朝食抜き、体調不良などがあります。日頃から規則正しい生活を送り、体調を整えておくことが重要です。

体が暑さに慣れるとうまく汗がかけられるようになり、その汗が蒸発することで体温が上がりにくくなる人体の適応のことを「暑熱順化」といいます。ただ個人差があり、暑熱順化には数日から2週間程度かかるといわれています。暑さが本格化するまえに、日常生活の中で軽い運動や入浴をして汗をかくことで、体を暑さに慣れさせておくことが大切です。

本校では、生徒自身が熱中症の症状や危険性を理解し、原因と予防を考えながら生活できるようにするため、6月16日(月)に明治国際医療大学吉田行宏教授に来校していただき、全校生徒に講演をしていただきます。よろしくお願い致します。

5月9日(金)に生徒総会が行われました。生徒会本部役員の司会により、生徒会・各委員会の活動方針や活動内容、昨年度の決算・今年度の予算案が提案されました。提案に対する質疑応答の後、賛成多数で可決されました。よりよい木津第二中学校にするため、皆でしっかり取り組みましょう。

